

Vol.129 「6か国の高校生の制服に関する意識」

世界に目を向けると、様々な国で学校制服が採用されています。制服のタイプは、日本でも多く見られるブレザータイプ以外にも、暑い国ではブラウスとスカート・ズボンを組み合わせたシンプルな制服や、民族衣装を取り入れた制服など、その国ならではのスタイルがあります。では、学校制服について高校生はどのように思っているのでしょうか？今回は、日本、アメリカ、イギリス、オーストラリア、韓国、中国の高校生に学校制服の必要性とその理由について調査しました。

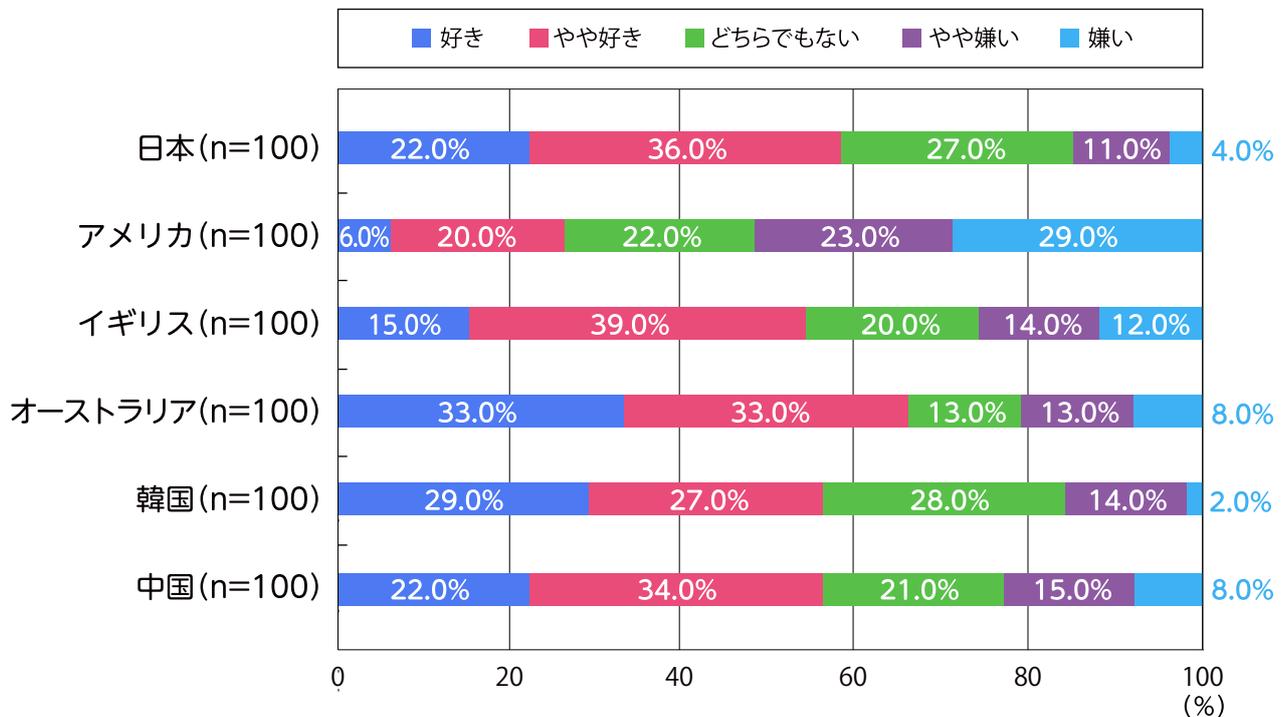


調査概要

調査対象：日本、アメリカ、イギリス、オーストラリア、韓国、中国の高校生
600人（各国100名）
調査方法：インターネットリサーチ
実施時期：2016年8月

Q 1. 学校制服の好嫌度

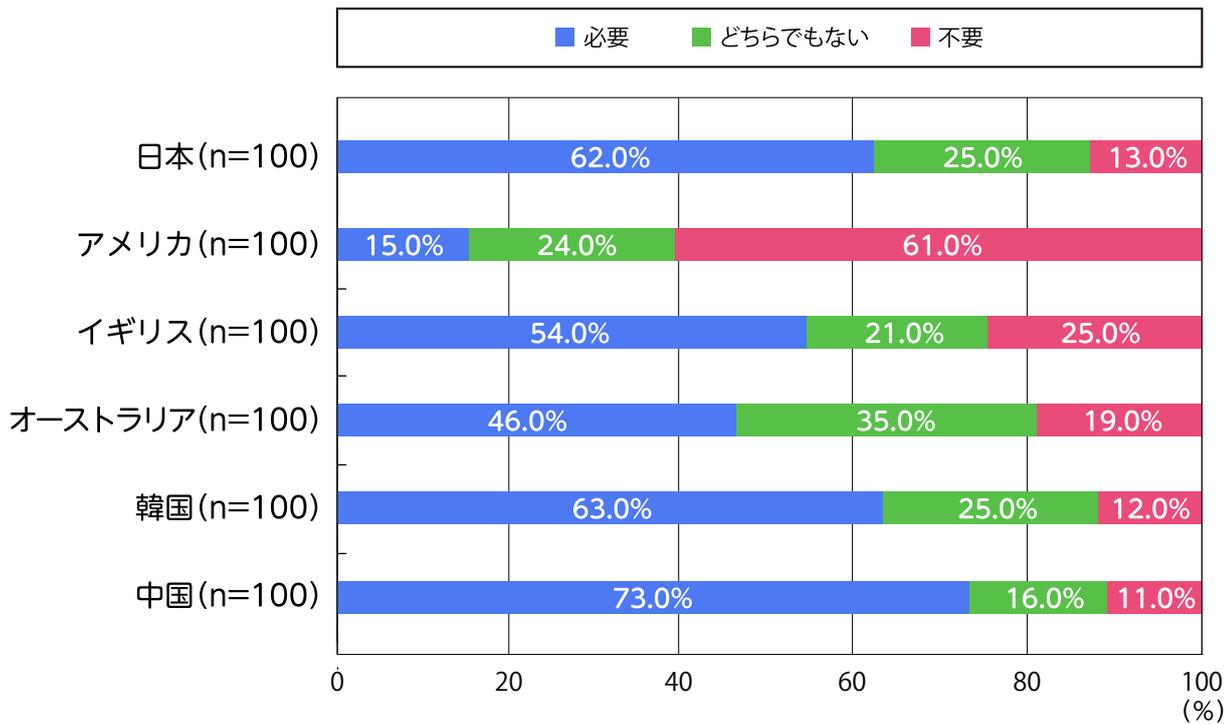
6か国の高校生に、学校制服は好きですか？と質問をしたところ、日本の高校生は「好き」(22.0%)、「やや好き」(36.0%)を合わせると約6割の高校生が制服は好きと回答しています。学校制服が好きという回答が最も多かった国は、オーストラリアの「好き」(33.0%)、「やや好き」(33.0%)を合わせた66.0%でした。



【図1】 あなたは、学校制服は好きですか？（単数回答）

Q 2. 学校制服の必要性

学校制服が「必要」という高校生は、中国(73.0%)が最も多く、7割を超えました。次に、韓国(63.0%)、日本(62.0%)、イギリス(54.0%)、オーストラリア(46.0%)の順で多くなりました。6か国の中で、学校制服が「不要」という回答が「必要」という回答を上回ったのは、アメリカ(61.0%)のみでした。



【図2】 あなたは、学校制服は必要だと思いますか？（単数回答）

Q 3. 学校制服の必要性の理由

学校制服が「必要」と思う理由は、「制服に着替えると、学校に行くスイッチが入る」(日本の女子高校生)、「高校生という自覚が持てるから」(日本の男子高校生)、「自信をつけさせてくれる」(オーストラリアの女子高校生)など、制服を着ることでポジティブな気持ちへと気分の変化が起こることや、「いじめ防止になり、学校のいいイメージにつながる」(イギリスの女子高校生)、「服装による差別を防げる」(中国の男子高校生)、「教師たちが学校の敷地内と敷地外の両方で、生徒と、そうでない者を見分けることができるので、生徒の安全も守れる」(オーストラリアの女子高校生)など、いじめや差別が防止できることや防犯につながるなどのメリットが多く聞かれました。また、「不要」と思う理由としては、「私服のほうが楽」(日本の男子高校生)、「生徒が自分の好きな服を着られるべき」(アメリカの男子高校生)、「私服のほうが着心地がいい」(イギリスの女子高校生)、「見た目非常に悪いため」(中国の女子高校生)など、私服と比べたときに着心地や見た目が悪いことや、自己表現できないというデメリットが聞かれました。

<学校制服が「必要」と思う理由> (n=313)

- 制服に着替えると、学校に行くスイッチが入る。(日本の女子高校生)
- 高校生という自覚が持てるから。(日本の男子高校生)
- 制服は学生の時にしか着ることが出来ないから。(日本の女子高校生)
- どの学校の生徒なのかわかりやすくするため。(アメリカの男子高校生)
- いじめ防止になり、学校のいいイメージにつながる。(イギリスの女子高校生)
- 差別やいじめを止めるし、私服より格段に安い。(イギリスの女子高校生)
- 教育の場で敬意を示すことができる。(イギリスの男子高校生)
- 制服によって、学校の生徒であることのアイデンティティを確立することができる。
(オーストラリアの女子高校生)
- 教師たちが学校の敷地内と敷地外の両方で、生徒と、そうでない者を見分けることができるので、生徒の安全も守れる。(オーストラリアの女子高校生)
- 自信をつけさせてくれる。(オーストラリアの女子高校生)
- どの学校に通っているか識別できる。(オーストラリアの男子高校生)
- 学校へ行く時の服選びが難しいし、新しい服を買い続けなければならないと考えると、制服はよいと思う。(韓国女子高校生)
- 服装による差別を防げる。(中国の男子高校生)

【表1】 学校制服が「必要」「不要」と思うそれぞれの理由 (自由回答)

<学校制服が「不要」と思う理由> (n=141)

- 私服のほうが楽。(日本の男子高校生)
- 女子はスカートだから。(日本の女子高校生)
- 私服のほうが、より体温調節がしやすく、快適な環境で授業に集中できると思うから。
(日本の男子高校生)
- なんとなく古臭い。(アメリカの女子高校生)
- あってもいいと思うけれど、必要ではない。(アメリカの女子高校生)
- 生徒が自分の好きな服を着られるべき。(アメリカの男子高校生)
- 私服のほうが着心地がいい。(イギリスの女子高校生)
- 着心地が悪く、高額すぎる。(オーストラリアの男子高校生)
- 生徒は自己表現をし、個性的であるべきだから。(オーストラリアの男子高校生)
- 動きづらくて活動には適さず、見た目もあまりよくない。(韓国の女子高校生)
- 制服の値段が非常に高い。(韓国の男子高校生)
- 学校制服によって、自分の個性や好み制限されるように感じる。(中国の高校生)
- 見た目が非常に悪いため。(中国の女子高校生)

【表1】 学校制服が「必要」「不要」と思うそれぞれの理由（自由回答）

 **まとめ**

日本の高校では8割以上の学校で学校制服が採用されています。制服のタイプは、ブレザー、詰襟、セーラーなどのほか、スーツやイートン、ワンピースなどがバリエーションが豊富です。

今回、6か国の高校生の調査によると、日本は制服が「好き」(22.0%)、「やや好き」(36.0%)を合わせると約6割の高校生が制服は好きという結果になりました。日本以外の国でも、イギリス、オーストラリア、韓国、中国において半数以上の高校生が制服は好きと回答していることから、制服は様々な国で支持されているようです。また、学校制服が「必要」という回答は、中国(73.0%)、韓国(63.0%)、日本(62.0%)、イギリス(54.0%)、オーストラリア(46.0%)、アメリカ(15.0%)という結果となり、アジアで制服の必要性は高いということがわかりました。学校制服が「必要」と思う理由は、制服を着ることでポジティブな気持ちへと気分の変化が起こることや、いじめや差別が防止できることや防犯につながるなどのメリットが多く聞かれました。一方、「不要」と思う理由としては、私服と比べたときに着心地や見た目が悪いことや、自己表現できないというデメリットが聞かれました。いずれの国においても、高校生にとって、制服は毎日着る服だからこそ、着たときの着心地の良さや見た目の良さが求められているようです。

毎月最終
火曜日
更新

カンコーホームルーム ~学生を読み解くデータ集~

カンコーホームルームは、学生を取り巻く環境や子どもたちの意識・ライフスタイルについて、多角的に調査・分析し、その結果をお届けしています。
ホームページでは、今回ご紹介した調査データ以外にも様々な情報を掲載しております。

検索<http://kanko-gakuseifuku.co.jp>